

川越市柔道連盟 所属団体 各位

平成29年 7月24日

いつも川越市柔道連盟活動にご協力頂き誠にありがとうございます。
国際柔道連盟審判規定（2017-2020）変更点（通達）をお知らせ致します。

宜しくお願い致します。

「投技と返し技」

- ・攻撃に対し返し技が施された場合においては、最初に自身の体側（横捨身技）、もしくは背中（真捨身技）をついた選手が、明らかに立技の状態から動作をコントロールし、技を掛けきらない限りはスコアとはならない。
- ・スコアを与えるに値する場合、適切なスコアが与えられる。
- ・どちらの選手も明らかに動作をコントロールすることなく、両選手が同時に着地した場合は、双方にスコアを与えない。
- ・着地後のいかなる行為も寝技とみなす。

※全日本柔道連盟審判委員会注釈

返し技を施した選手が、立ち姿勢から明らかにコントロールして相手を投げきった場合、返し技を施された選手の状況に応じてスコアを与えることとなる

「肩三角グリップ」



- ・寝技の場合、肩三角グリップを施しても良い。



- ・寝技において、脚で相手の体を固定し肩三角グリップを施すことは禁止 行為であり「待て」が宣告される。



- ・立技における肩三角グリップは「待て」が宣告される。